

多文化フィールドスタディー（3・4年次）

— ベトナムでの調査を終えて—

<研修期間>

2016年8月17日～8月24日

<研修場所>

ベトナム ホーチミン市

【学生の報告書から（多文化コミュニケーション学科）】

「インタビューで試行錯誤を重ねた」

多文化3年 佐藤 章裕



<テーマ>

観光地・勤務地としてのベトナム

<調査方法>

英語を使い、観光客と現地で働く人にそれぞれ別の質問をした。その時に応じて、インタビューする質問項目を絞るなど極力工夫をした。

<新たな気付き>

現地では全員英語が話せると思っていたが、実際に話せる人は2人に1人ほどと感じた。またインタビューを断られることも多く、どのようにお願いするのが最も良いのか試行錯誤が必要だった。

「インタビュー結果から各国の社会・経済事情を実感」

多文化3年 坂根 眞夕



<テーマ>

ベトナムに来る観光客とそれを支える観光業について

<調査方法>

- ・通りごとに、どのようなジャンルの建物やお店があるのか数えて集計
- ・ベトナムに来ている観光客、現地で主に観光業で働く人に分けそれぞれにインタビュー

<新たな気付き>

観光で来ている日本人は、滞在日数1週間前後が多く場所もベトナム1か所なのに比べ、ヨーロッパやアメリカから来ている観光客は2週間～1か月でベトナム以外の国も行ったという回答が多かったことに各国の社会・経済事情が現れていると実感した。



<テーマ>

観光客の旅の目的及び現地で働く人ほどの様子か

<調査方法>

観光客と現地で働いている人に、事前に用意した項目に沿ってインタビュー調査を行う

<新たな気付き>

実際に行ってみると現地ならではの空気に圧倒された。インタビューに関しても、みんなで時間をかけて練って話し合ったが、いざ行ってみると想像していなかった回答が返ってきて、現地調査の難しさを感じた。



<テーマ>

観光客や現地で働く人へのインタビューを通して需要や傾向をつかむ

<調査方法>

・大きな通りごとにグループで左右にわかれ、区間を決め、どんな店があるのかジャンルごとにわけ、集計する。そこからどのような店に需要があるのか統計をとる。

- ・観光客に声をかけ、事前に用意した質問項目をもとにインタビューを行う。
- ・現地のお店などへ行き、そこで働いている人に英語でインタビューを行う。

<新たな気付き>

インタビューをしていて、私たちが知らない地名、観光地が会話の中でたくさん出てきたため、事前学習が全然できていなかったのだと思った。会話も広げられず、インタビューをするにあたっては、こちらも有名な観光地などは学習しなければならないと感じた。

また、観光客はアジア人（日本人）より欧米系の方が答えてくれる傾向にあり、現地の人は英語が話せない人が多く、最後の方はベンタイン市場で「買ったかわりに答えてくれ」といったやり方になってしまった。

事前に質問項目を用意したが、その項目通りにいかないことが多かった。予想外の回答をされることも多く、目的がない人もたくさんいた。

「バックパッカー率の高さを発見」

多文化3年 土田 嬉衣



<テーマ>

新たな発見

<調査方法>

現地で働くベトナム人や、観光客の多い地域に住むベトナム人に対して、その付近にはどの国から来る観光客が多いか、観光客は何を求めてベトナムを訪れたのかを英語でインタビューする。それに加え、観光客には何を目的としてベトナムを訪れたか、その目的別に詳しくインタビューする。

<新たな気づき>

ベトナムを訪れる観光客の多くは、バックパッカーであった。私たちが頻繁にインタビューしたファムグーラオ通りは、バックパッカーが多かったというのも一つの理由である。その通りにはバックパッカーが多く利用する安い宿が多数あった。

「いろいろな開発事業が進められ、予想していたよりも発展していた」

多文化3年 姫野 空



<テーマ>

ベトナムの歴史と町並み

<調査方法>

街頭調査、インタビュー、通りを自分たちの足で実際に歩き調査

<新たな気づき>

発展途上国のため、行くまではもっと不便な街かと思っていた。しかし、実際に行ってみると高島屋などもできていて、さらなる経済発展のためにいろいろな開発事業が進められていた。

「長期の滞在者が多いことが印象的」

多文化3年 立石 夏奈



<調査方法>

ホーチミン市内で観光客またはベトナムで働いている人へのインタビュー

<新たな気づき>

ベトナムに来ている多くの観光客は私がインタビューした中では、滞在期間が長期（2週間～1か月）の人が多く印象が残った。また、何回か来たことがある人やもう一度来たいと思っている人などがたくさんいた。